



地域づくり考房『ゆめ』は、大学で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に生かしていくことを目指しています。

“ゆめ”の由来…結芽「ニースの芽を結ぶ場所」+ 夢 + 遊眼「遊び心の視点を持つ眼」



松本大学



古い電車で新しい語らい

3月21日ハニフ1号さようならイベント

「明日の社会を担うのは君たちだ」

松本大学学長 中野和朗

新入生のみなさん！「幸せづくり大学」の松本大学へようこそ！さあ！いよいよ大学生活がスタートです。松本大学は皆さんに「幸せづくり」のできる人になって欲しいと願っています。そして、「生きていることは素晴らしい！」と思える地域社会をつくることに貢献して欲しいのです。これまでの長かった受験勉強の中で知らない内に失いそうになっていた助け合ったり、思いやったりする人間らしい優しい心をもう一度大学生活の中でとり戻し豊かに育ててください。競争原理の支配がますます強まる中で、“格差”が増大し、身の回りには悲しく不幸せな事態が進行しています。こういう事態を改善することも「幸せづくり」の仕事です。競争も格差もないみんなが助け合って幸せな気持ちで暮らせる地域社会をつくることは、一つの夢への挑戦です。このような夢の実現へのチャレンジを手助けし、大学と地域社会の仲介役となっているのが本考房『ゆめ』です。

明日の地域社会の担い手は君たちです。市場原理に蹂躪される苛酷な現実に埋没せずに“幸せづくり”の夢にチャレンジするのも若者の特権です。

Topics

まちの縁側づくり実践塾

縁側づくりプロジェクト

- ・田んぼにカエル
- ・川のほとりに語らいの場
- ・古い電車で新しい語らい

考房『ゆめ』プロジェクト

- ・松本大学ナーマル・プロジェクト
- ・松本大学平和を考える会

学生の地域連携活動

- ・バスケットボール教室
- ・ものぐさ大学美術館めぐり 他

インフォメーション

- ～考房内外各種イベントや
- スタッフ募集のお知らせです～

ゆめカフェお知らせ

必見!!考房『ゆめ』の活用術

♪ まちの縁側づくり実践塾 ♪

“かつてはまちにも田舎にも縁側というものがございました。お若い方にはなじみがなくとも、ある世代以上にはあそこに行けばなにか見えこと起こるかも、と、人の気持ちを沸かしたせ、人と人のあいだに心地よい風が吹き渡る、そういうやわらかい場所、それが縁側でございました。”

人と人をつなぎ、活動をつなぎ、地域をつなぐ場としての新しい「まちの縁側」を創造してみようと、日本における住民参加のまちづくり、まち育ての専門家である延藤安弘先生を指南役に、地域づくり考房『ゆめ』主催の「まちの縁側づくり実践塾」が12月から3回にわたり行われました。松本市内外の方、新村地域の方、学生60名余が集い、自分の身の回りの縁側づくりを考え合いました。2台の映写機を使い独特な手法と語り口で、先生がかかわった全国各地のまちづくり実践を紹介していただいた「げんとーく（幻燈十話）」は、活気にあふれまちづくりの楽しさややる気を引き起こしてくれました。

探検！
発見！

ほっとけん！



地域のおタカラ
探してみよう！

まちの
縁側づくり
実践塾に
参加して

新村のお宝(いいところ)探しは授業でも何度か行い、新村地区を歩いてまわることがありましたがうまく見つけることが出来ませんでした。しかし、今回地域の方と一緒に話を聞きながら歩いてみると、田んぼの中で組んであるワラや並んでいるお地蔵さん、家のまわりに植わっている木など、今まで何とも思わず素通りしていたものが、それらにまつわる話や歴史を教えてもらうことでとても貴重な宝物へと変わっていきました！中には、「何もない」ことが宝物、「地域の人」が宝物という意見もありました。今までとは全く違う視点で新村を見て歩き、新しい(本当の?)新村を知り、新村をもっと好きになったように思います。

私たちの班では、「古い電車で新しい語らい」というテーマで新村駅前にある古い貨車を使ってまちの縁側を作ろう、という話が出ました。実現に向けて話を進めていくのがとても楽しみです。これからのまちの縁側づくり実践塾にも、多くの方に参加していただき、一緒に出来たらいいと思います。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科3年 隠居 綾さん)

地図製作
から
見たもの

私たち2年寄藤ゼミでは大学を拠点とした新村地域のウォーキングマップを制作した。このプロジェクトは新村福祉ひろばからの提案を受け始まったが、後に地域づくり考房『ゆめ』からの「縁側づくり実践塾」で使用したいとの依頼にも応じる形となり、こうした要望に応えていった結果、完成に至るまでに紆余曲折があった。

その中でゼミ生それぞれに地図作製に対する意識のバラつきがみられ、学祭発表を終えてからはどういった動機で取り組んでいくのか、ということについての意見が交わされた。議論の結果、「誰のためか」は、「自分のため」である、しかし依頼に応じて地図を作る、という意識を全体で共有するようになった。作業は夜遅くまで続き、全員が代わるがわるパソコンでの入力などの作業を気力で乗り切り完成に漕ぎ着けた。

完成した地図は多くの意見の中で生まれた妥協案ではなく、依頼を検討した上で、自分たちが盛り込みたいことを話し合い、考え、全員がひとつの方向にまとめた成果である。また発表会等によって得た多くの人からの反応は、反省点であると同時に、地図の完成を実感させるものだった。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科3年
丸山 晋一さん)

どんな縁側が
できるかな？



田んぼに
カエル

私達は新村の財産である田んぼに注目をし、そこを人々が集まる縁側のできるのではないかと考え「田んぼにカエル」というテーマのもと活動を行っています。

12月24日から始まった縁側づくり実践塾でこのプロジェクトをスタートさせ、1・2月の実践塾で私達には何が出来るか・何をしたいかを話し合いました。話し合いの中で「田んぼの魅力は四季折々の変化が見られる」という意見から、3月21日に行われたハニフ号さよならイベントで「春夏秋冬酔い良い寄い」としてまとめ展示しました。まとめるにあたって、私達メンバーは新村の知識が乏しいので、長岡寿先生から新村の歴史についてお話を伺い、知らなかったことを沢山教えて頂きました。大変貴重なお話を聞けたと思います。

今後の展開としては、始めの一步を3月21日のイベントで踏むことができたので、まずはご協力頂いた地域の方への報告とお礼を4月にしたいと考えています。そして夏に田んぼで人々が集まるイベント(集会)のようなものを作りたいと思っています。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科4年 島崎 真代さん)



新村伝説紙芝居案

私が初めて『話してみるものだ』と思ったのは、松本市町内公民館長会のメンバーで地域づくり考房『ゆめ』を訪問した時でした。朝夕の散歩時に感じていた『これでは、すすき川の土手道が近くの病院職員の喫煙場所になってしまう』。そんな不満を話しただけの私に『まちの縁側づくり実践塾』へのお誘い。楽しく参加しました。

私が子供の頃、すすき川は格好な遊び場でした。通う学校にプールがなかった時代、夏にはPTAの方々が川をせき止めて作ってくれたプールで泳ぎました。初冬には近所のお母さんたちが流れに沿って並んで『お菜洗い』。子供たちは切り落としたカブを投げ合って遊んだ。そんな思い出話に花が咲いたワークショップ。ここで、何度目かの『話してみるものだ』を感じたものでした。ケータイの画面から目を離さずにセカセカと歩く人、相変わらず無くなる河原へのゴミ投棄。「ちょっと話して行きませんか」と誘える縁側を、『はやく実現したいものだ』と、今私はあちこちを話し回っています。

(松本市中条 井野根 條さん)

川のほとりに
語りこの場

新しい語らい
古い電車で

ものぐさ太郎が住んだこの地の大学に考房『ゆめ』があるという。どんな活動をしているのだろうと考えていたら、いつの間にやら首までどっぴりの関係である。この考房の活動は目の付け所や視点の深さが違う、夢がある。柿の実やネギを見て新しい事をする、街の再開発を手伝う、など幅広く考える。

そんな折り、考房『ゆめ』主催の「まちの縁側づくり実践塾」が開かれ、新村駅にある日本最古の電車ハニフ1号を使っての縁側づくりが企画された。新村駅といえば我が家のまん前、参加せねばなるまい!!

まずは小手調べ、3月21日のハニフ1号お別れイベントに併せて、縁側の土台を作ろうと画策、オープニングの和太鼓演奏から始まって、駅弁・紙芝居・電車絵の展覧会・周辺マップ等々...考えただけでワクワクドキドキしてくるではないか!!

今後は今回の活動を足掛かりに、この上高地線の古い電車に学生と地区住民が憩える縁側(のような存在)を作ろうとしている。どのような新しい力が育まれるのか、どんな展開をするのか、地区住民としても一緒に活動している身にとっても楽しみである。

(松本市新村 山口 茂さん)



ハニフ1号

☆ 考房『ゆめ』プロジェクト活動紹介 ☆

1月に発足し新たな奨励事業として活動を始動した「松本大学ナーマル・プロジェクト」と今年度の奨励制度で選考された「松本大学平和を考える会」の活動を紹介します。

松本大学 ナーマル・プロジェクト

ナーマル・オヤ



私たちは、スリランカのナーマル・オヤという地域の開発を行うことを目的に、2007年1月17日、このプロジェクトを立ち上げました。ここで言う開発とは、経済至上主義的な意味合いのものでなく、Human Development (人間的な成長・発展) を芯においたものです。

ナーマル・オヤは、国民が移り住んでもいいように、政府によって1963年に新しく開墾された土地です。しかし、新しい開拓地であったが故に、産業や農業が根付かず貧困化して今に至ります。

私たちは、現在、この地域で行える産業のきっかけをつくる、ちゃんとした学習を受けることのできない子どもたちの支援ということ等を計画し活動しています。年末にはスリランカに行き、現地のニーズ調査をする予定です。

今年の活動としては、始めたばかりのプロジェクトであるため、上記の計画と並行して、私たち自身、もっと勉強していかなければなりません。専門の先生や、同じような活動をしている人たちに話を聞いたりして現地調査に備えたいと思います。

もし、興味を持たれましたら、気軽に声をかけてください。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科2年 若旅 俊介さん)

プレゼンテーションの
ようす
若旅さんと
ウメンドラさん



松本大学 平和を考える会

みずず屋さんにおいて
花村先生と下澤さん



私たちの活動を紹介させていただくと、松本大学内で細々と平和や社会問題に対する啓発活動をおこなっています。活動の1つ「戦争体験者の聞き取り調査」は、松本市中央公民館と共催で行っています。この活動の目的は、地域の方から戦争当時のいろいろな体験談をお聞きして、その方の生きてこられた時代を知り、そのときの思いや感情を共感し、自分たちの世代、もしくは自分よりも若い世代に、戦争体験者の声を残していこうというものです。

第1回目は、3月19日に新村で町医者として長年診療してきた花村医院の花村武先生をお招きして、軍医時代のお話をお聞きする会を新村郵便局隣のみずず屋で開催しました。当日は、花村先生を慕う多くの方に足を運んでいただきました。また、地元の方の協力をいただき和やかに会を行うことができました。花村先生は92歳という高齢ながら、最初は30分と言っていたのが、しまいには1時間に延び、話してくれた花村先生も元気になってお帰りになりました。

1回目の活動で反省点も多いのですが、のんびりと地域の人達と活動していけたらいいなと思いました。このような活動に興味がある方はお気軽に声をかけて下さい。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科2年 下澤 裕一さん)

バスケット ボール教室



私たちは、1月の28日、2月の11、25日に中学生を対象としたバスケットボール教室を松本大学第1体育館にて開きました。まず、チラシを作成し高綱中学の顧問の先生にプレゼンを行い、アドバイスをいただきました。「送迎時の事故に対してどう対応するか、他の中学校は参加するのか」といったことや「いい企画なので、いい教室にしてほしい」と言われ大きな励みになりました。日程を改め、日曜日の午前中にしてゲームを中心とした教室にすることにしました。

メンバーの各母校にチラシを配り、タウン情報に教室のことを掲載してもらいました。早くも連絡があり、中には個人で参加したいという中学生もいました。しかし、私たちの普段の生活態度があまりよくないために、教室開催が危ぶまれました。ですが、多くの人達の協力をいただき、第1回目を行いました。第1回は、高綱、旭町中学校と個人の参加がありました。第2回と第3回は、女鳥羽、旭町中学校が参加してくれました。当日は、大きな問題やトラブルもなく行えました。終了後の個別指導には多くの希望者がありました。

人に教えることや、当日の進行、状況の把握等難しく、全員が理解しきっていたとは思えません。もう少し、積極的な協力がほしかったです。短い期間でしたが多くのことを学びました。中学生や保護者の方から、「今後も続けてほしい」といった意見をいただき、今後の私達の課題となりました。なので、私達の挑戦はまだ続くのかもかもしれません!!

(松商短期大学部2年 宮坂 翔さん)

私たちは、人とのふれあいをテーマに12月14日に新村地区福祉ひばで行われた「ふれあい健康教室」に参加しました。私たちは、ふれあい健康教室の中で行われるミニ運動会の企画を任せられました。ミニ運動会は、新村保育園の子供達と、地域のお年寄りの方達がゲームを通してふれあうというものでした。

そこで、事前に保育園に行き子供たちを知った上で、お年寄りにも子供にも簡単なルールで楽しんでもらえるゲームはないかと考えました。そして選んだのが風船バレーです。ヒントを得たのは、福祉施設などのリハビリで行われているゲームでした。

当日は、どうしていいのかわからず戸惑ってしまい、いろいろな人に迷惑をかけてしまいました。ですが、来ていた方達に楽しんでもらいたいという気持ちで頑張りました。お年寄りと子供のふれあいのために設けた肩たたきや手遊びも喜んでいただけました。また、クリスマスが近かったので、皆さんに楽しんでいただけるよう、前日には部屋の飾りつけも行いました。

準備が思っていた以上に大変で苦労しましたが、子供やお年寄りの方々が楽しそうにゲームをしているのを見たときは、やったかいいがったなと思いました。また、普段は接する機会がない年代の方達と交流することが出来て楽しかったです。

私たちの活動に協力してくださった皆様、いたらない点もあったと思いますが、本当にありがとうございました。

(松商短期大学部2年 石田 芙弓さん)

ふれあい 健康教室



～ものぐさ大学の方の声～



北斎・頼山陽 一茶ゆかりの古寺

須坂山の麓に建ちた古刹は寛政4年（1792）に開山された曹洞宗の古寺です。頼山の武村保昌と頼山陽の曹洞宗、頼山陽一茶ゆかりの古寺であり、境内には頼山陽の墓所や一茶が「やせ過ぎた一茶これにあり」という句を詠んだ枯松の池があります。その外、東照・頼山陽・頼山陽の墓所や池に石門があります。また、本堂の天井には21番歌もある大さきらの天井絵があります。美術史家斎藤寅次郎「大風堂」です。寛政12年から189年以上の歴史を誇る（1940）「大風堂」は、本堂の天井を渡り歩いているかのような立体的な「大風堂」は、江戸時代の大風堂といふのが、江戸時代から今でも心算されています。189年以上の歴史を持つ大風堂といふのも、江戸時代から今でも心算されています。

入場料 大人200円、小学生100円

写真 北斎『八方睨み鳳凰図』 小林一茶句碑

北斎、須坂の古刹、
建立1層の古き古き



作成したガイドブックの一部です

ものぐさ大学は、地域と松本大学が一体となって住民が気軽に楽しく学び、教養を高め文化の向上を図るとともに、明るく活気ある地域づくりを目指すための講座として平成15年に開講しました。新村公民館、新村地区福祉ひろば、松本大学の三者で企画運営、実行しています。

事業の1つである美術館めぐりは今回4回目で、12月10日に須坂小布施方面にバス2台で出掛けました。地区住民、松本大学の先生、学生を含め追走であわただしい中、例年の2倍とも言える63名が参加しました。学生さんが事前に下見をして見どころ・食べどころの資料を作成して、バスの中では創造力豊かにわかりやすく説明をしていただきました。須坂の田中本家博物館、小布施の北斎館、ただただ見とれ感嘆しました。午後はフリータイムで各自好きな時間を過ごしました。最後に北斎の「八方睨み鳳凰図」の天井絵、「小林一茶と蛙合戦の池」で有名な岩松院を参拝し、北信濃をあとにしました。

学生さんには新村地域に溶け込んで、勇気と元気、そして創造力を与えていただきました。地域の住民と一体となって事業に取り組んだことは、きっと今後社会に出た時に役立つ事を約束します。これからも是非、地区の活性化のために一緒に活動をしていただきますよう、温かいご理解とご協力をよろしくお祈りいたします。

（松本市新村 川久保勝義さん）



こんなに
たくさんの方
が参加
しました！

～企画した学生の声～

今回の企画を通して私が目標としたのは、地域の方々とコミュニケーションをとり、楽しみながら1つの事業をすすめるための企画や運営を学ぶことでした。新村ものぐさ大学実行委員の方と何回も打ち合わせや下見を行いました。短大部の上條さんと一緒に、参加者の方たちに見やすいガイドブックを作成することを心がけました。北斎館内の様子や、フリータイムのための周辺マップに見どころ食べどころといったものを、下見で得たものの他、インターネットや情報誌、パンフレットで調べ掲載しました。

当日は参加者の方たちへのおもてなし（飲み物とガイドブックの配布、事前の説明や社内での案内等）とガイドもしっかりとでき、参加者の方からも「いいガイドだったよ」と感想をいただきました。

今回の活動を通して、社会福祉を学ぶ中で最も大切なのは、人に喜んでもらえるような考え“おもてなしの心”だと思います。自分だけの目線から見ていくだけではなく、自分だったら何をされたら嬉しいかを相手の立場に立って考えることが、より良いものを作り上げるために必要なことだと思います。

（総合経営学部観光ホスピタリティ学科4年 竹内 翔さん）

Q

いろいろな活動
にどうやって
参加するの？



A

考房『ゆめ』で地域活動やイベント情報を見て、自分の好きなこと、関心のあること、特技や趣味を生かした活動に参加する
社会活動やインターンシップなどの講義を受講して活動に参加する
学生主体のプロジェクトや地域と交流しているサークルに参加する

★ 地域活動への参加 ★

ユニバーサルデザイン調査



松本市街地でトイレ調査中

私は、体の不自由な人も暮らしやすい住環境の整備に取り組んでいるユニコスさんのお手伝いとして、10月14、15日にあがたの森で行われた松本市生活消費展に参加させていただきました。地域の団体が調査、研究したことを消費者に向けて発表・展示をするという活動で、当日は多くの消費者の方が集まりました。

ユニコスさんや、展示をしていた地域の団体の方々には、利益を求めることより、「少しでも地域を良くしたい・暮らしやすい社会にしたい」という気持ちで活動をしていました。普段、仕事で使っている専門的な知識を活かして、消費者の方に伝えようとしていて、消費者の方々も、興味を持って見に来てるように感じました。私は、ユニコスさんの展示を見に来た方にパンフレットなどを渡していたのですが、「いない」という人がいなく、とてもうれしかったです。

この日、ユニコスさんや地域の団体の方々、消費者の方々とはたくさんお話しをすることができ、それぞれの考え方や立場があると改めて感じました。自分の立場だけではわからないことも、多角的にいろいろな立場から考えればわかり、相手のことを考える大切さを学びました。

利益を求めず活動する方々の姿を見たり、それぞれの方々の考え方を聞かせていただくなかで、興味を持つことがたくさんあり、何よりいろんな人と会ったり活動することが楽しかったので、今後もぜひ続けていきたいと思います。

(松商短期大学部2年 高山 春奈さん)

2年生の時に男女共同参画を勉強していたこともあり、女性が企画して行うイベントに興味があり、12月と1月の企画に参加しました。

「親子で楽しむ絵本の世界」では読み聞かせだけでなく、その年齢に合った絵本の紹介をしていただきました。昔から親子で読まれている絵本は時代が変わっても読み継がれていて、私が読んでもらった絵本もたくさん挙げられていました。また、手遊びやわらべ歌で遊び、自分が小さかったころのお母さんやおばあちゃんと遊んだことを思い出しました。

「つくってみよう木のおもちゃ」では、買うと高くついてしまう木のおもちゃを自分たちで作るので安く済むとお母さんたちに大好評でした。木のおもちゃは温かみがあり、壊れにくいので世代を越えて長い間使うことができます。たくさんの会話をしながら一緒に作ることで親子のコミュニケーションが取れ、また一緒に作ったという思い出ができます。参加していた子供たちはみんな楽しそうに作っていたことが印象的でした。

今回参加してみて、親子の距離をより縮めていくために、もっと多くのお母さんたちに参加してほしいと感じました。ウイメンズ・サポートは参加者自らが提案するイベントの主催をしてくれるので、お母さんたちの自主性を育てることができると思います。子育てをする他のお母さんと触れ合える場の提供者として、これからもたくさんのイベントを開催してほしいと思います。

(総合経営学部18年度卒業生 高橋 未紗さん)

ウイメンズ・サポート 子育て支援講座



活動した学生からの感想

自分の好きなことを地域にむけて行動することで、たくさんの笑顔を見ることができ、また「地域が元気になった」と喜んでいただけ充実感をもらった
地域の活動を初めて企画し、責任感が強くなり、他の人に対する気遣いもできるようになった
地域の方々とは協力しあって計画し、力を合わせて何かを創り上げていくことの大切さを学んだ

新まつもと物語プロジェクト ボランティアスタッフ募集

内容 松本市公式観光情報ポータルサイト（ホームページ）の運営を主活動に、自分たち自身で新しい松本を発見し、多くの人に松本の魅力を情報発信するという市民プロジェクト。

対象 自分が感じた松本を専用ブログで発信する市民記者、ホームページのシステム構築、印刷物デザイン、いずれが可能な方。

さくらフェスタ2007 参加者募集

内容 塩尻市レザンホール前の桜並木を歩行者天国にして、垣根のないまちの縁側に市民交流の花を咲かせます。

対象 企画・運営スタッフおよび、バザーなどのブースに出店していただける方

日時 4月14日（土）午前10時～午後3時
（雨天中止）

場所 塩尻市レザンホール周辺

ネイチャーキッズサマーキャンプ スタッフ募集

内容 8から10人に1リーダーという形で、子供達のよきお兄さん、お姉さんとして、一緒にテントで寝泊まりして色々な活動をする。7月に一度、研修有り。

対象 明るく元気で子どもが好きな方

日時 7月30日（月）～8月3日（金）

8月7日（火）～8月11日（土）

8月21日（火）～8月25日（土）

場所 国立信州高遠青少年自然の家

備考 日当1日5,000円

山望苑 喫茶運営ボランティア募集

内容 介護老人保健施設での喫茶運営ボランティア。飲み物は施設で用意。簡単な介護実習有り。

対象 明るく元気な方

日時 10時～11時30分

場所 山望苑（松本大学から徒歩5分）



ゆめカフェのお知らせ

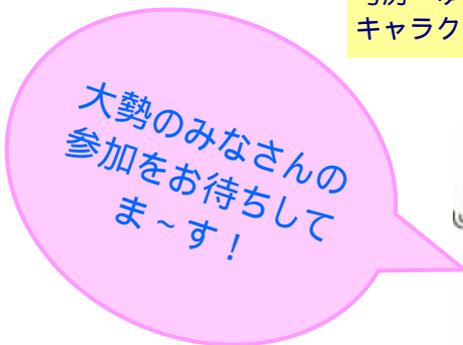


昨年も開催しました「ゆめカフェ」を今年も開催しちゃいます！

「考房『ゆめ』って何してるの?」「どんなプロジェクトがあるの?」そんな素朴なギモンから「何かをしたいと思っている」「何かしたいことを探している」「始めてみたけれど行きづまりを感じている」といったお悩みまで、学生スタッフが優しく楽しくお応えします。

詳しい日時は新入生オリエンテーションで発表します。

考房『ゆめ』のキャラクター「むう」



***:.. *:.. ° 必見!!考房『ゆめ』の活用術 *:.. ° ***

今回、これを読んでいるあなたに考房『ゆめ』の活用術を伝授しよう。その活用術とは...単純明快!!講義に空きがあったら考房『ゆめ』にGo!!するだけです。考房『ゆめ』に行けばいつも笑顔で元気な声の福島明美先生やスタッフがいます。学校の事や違和感に感じたことを相談するだけで直ぐにあなたがやりたい事へのきっかけづくりをしてくれますよ。そうすれば、あなたの考房『ゆめ』活用術はマスターしたといえると思います。

最後に、私は卒業しますがこの活用術は私が実際に経験した実例をもとに考えました。ですので、困ったことがあったら考房『ゆめ』にいて相談してみてください。

（総合経営学部18年度卒業生 水谷 通章）

インフォメーションへの問い合わせ“ゆめ通信”へのご意見・質問など、すべて下記へお願い致します。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

Tel: 0263-48-7213(直通) 0263-48-7200(代表)

Fax: 0263-48-7216

E-mail: community@matsu.ac.jp

URL: http://www.matsumoto-u.ac.jp/matsumoto_u/yume/